

成田営農経済センターだより

令和7年5月

TEL：0465-38-0131



＜農薬についての注意＞

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。（前日は24時間前）
「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

△△店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。△△

——【う め】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除	農薬の収穫前日数を遵守しましょう。				
5月上旬	○黒星病・すす斑病 スコア顆粒水和剤 3,000倍 収穫前日3回 33g/水100ℓ				
5月中旬～下旬	○黒星病・すす斑病 パレード15フロアブル 2,000倍 収穫前日2回 50ml/水100ℓ				
収 穫					
梅酒用：大きい果実から順次収穫し収穫後の直射日光は避けましょう。					
漬梅用：青みが抜けた大きいものから順次収穫しましょう。					

——【キウイフルーツ】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除					
5月上旬	花腐細菌病	環状はく皮	（樹勢が低下している場合は実施しない）		
	蕾白化期（がく割れ）	5月1日頃	に主幹に4～5.5mm幅で行いましょう。		
5月中旬（開花前）					
〇かいよう病・花腐細菌病	コサイド3000	2,000倍	50g／100ℓ		
	（クレフノン200倍加用 500g／100ℓ）				
（かいよう病は収穫後から果実肥大期まで、花腐細菌病は休眠期～叢生期（新梢長約10cm）まで）					
〇カイガラムシ類・キウイヒメヨコバイ			アプロードエースフロアブル	1,000倍	収穫前日
				1回	100ml／水100ℓ
摘 蕾	5月上旬～中旬				
早期に側花や変形花を除去し、受粉効率と初期肥大を良くさせます。					
5月の強風を考慮して花数の調整をしましょう。					
人工授粉	5月中旬～下旬				
石松子を使った受粉	5～10倍	開花2～3日までに受粉しましょう。			
溶液受粉	250～300倍	希釈してから2時間以内に使い切りましょう。			

——【か き】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除

4月下旬～5月上旬

○カイガラムシ類・アザミウマ類

モスピラン顆粒水溶剤（劇） 4,000倍 収穫前日 3回 25g/水100ℓ

○落葉病

エムダイファー水和剤 650倍 収穫45日前 2回 153g/水100ℓ

摘蕾と人工授粉

摘蕾は伸長停止前後から開花期までに1結果枝に1蕾を基本とし、残す蕾は結果枝中央部の下向き・横向きとする。受粉作業は開花から2～3日の間に行いましょう。次郎系の柿では、種が入ると果頂裂果しやすいことに注意する。

——【温州みかん】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除

5月中旬～下旬

〇灰色かび病・そうか病

フロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50 ml/水100ℓ

又はストロビードライフフロアブル 2,000倍 収穫14日前 3回 50g/水100ℓ

〇コアオハナムグリ モスピラン顆粒水溶剤（劇） 4,000倍 3回 収穫14日前 25 g/水100ℓ

そうか病多発園ではフロンサイドSCを散布しましょう。＊かぶれには注意しましょう。

灰色かび病防除は満開から落弁期にかけて散布する(多発園は2回)。 フロンサイド使用回数1回

訪花害虫多発園では2回以上散布する（3分咲きと満開時期）。

夏肥施用

5月下旬

特選みかん配合655 200kg/10a（吸収率を高めるため、6月中旬と2回に分肥すると効果的）

施肥後、軽く中耕します。反射シート被覆のため秋肥が施用できない場合は夏肥を多めにしましょう。

葉面散布 樹勢が低下している樹では尿素600倍を散布し、樹勢の回復を図りましょう。

——【中晩柑】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除

5月上旬～5月中旬

○灰色かび病 ストロビードライフフロアブル 3,000倍 収穫14日前 3回 33g/水100ℓ

又はフロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50 ml/水100ℓ

※灰色かび病防除は満開から落弁期にかけて散布します(多発園は2回)

○コアオハナムグリ・ケシキスイ類 モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 収穫14日前 3回 25g/水100ℓ

湘南ゴールド・はるみ(かいよう病に弱い品種)

5月上旬～5月中旬

○かいよう病

コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ

+ クレフノン 200倍 500g/水100ℓ(薬害軽減のために加用する)

※マシン油散布とは2週間以上あける

湘南ゴールド、はるみ、レモンは、かいよう病に罹病しやすいので薬剤による防除をしましょう。

栽培管理・樹勢強化

葉面散布 5～8月に不知火・はるみの樹勢強化を目的に尿素600倍の葉面散布を行いましょう。

はるみは、着花量が多いと樹勢の低下につながります。

はるみ、不知火は上部1/3～1/4を摘蕾や早期摘果をし、樹勢の強化を図りましょう。

——【レモン】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除	5月（開花盛期～落弁期）				
<u>〇かいよう病　コサイド3000　2,000倍　50g／水100ℓ又は</u>					
<u>イデクリーン水和剤　500倍　200g／水100ℓ</u>					
<u>（クレフノン　200倍　500g／水100ℓ　薬害軽減のために加用する）</u>					
<u>〇灰色かび病・そうか病　ストロビードライフフロアブル　2,000倍　50g／水100ℓ</u>					
<u>収穫14日前　3回</u>					
〇チャノホコリダニ・ミカンサビダニ　イオウフロアブル　400倍　250ml／水100ℓ　発生初期					
〇コアオハナムグリ　モスピラン顆粒水溶剤（劇）4,000倍　25g／水100ℓ　収穫14日前3回					
※マシン油との散布間隔は14日以上空ける。イデクリーン水和剤とイオウフロアブルはマシン油との14日以内の近接散布は行わない。					

育苗箱施薬剤 育苗箱施薬は本田への防除軽減のために必要な防除です。必ず散布しましょう。

※次の二つの育苗箱施薬から一剤選択して、防除しましょう。

イネミズソウムシ
イネドロオイムシ
ウンカ類
ツマグロヨコバイ
いもち病
紋枯病
白葉枯病
内穎褐変病

エバーゴルフフォルテ箱粒剤
播種時（覆土前）～ 移植当日 1回 育苗箱1箱当たり50g

イネミズソウムシ
ウンカ類
ニカメイチュウ
イネツトムシ
いもち病
内穎褐変病

ブーンゼクテラ箱粒剤
播種時（覆土前）～ 移植当日 1回 育苗箱1箱当たり50g

・「いもち病」や初期の害虫、「紋枯病」に高い効果を発揮します。浸透移行性に優れ、長い残効性があります。育苗箱処理でその後の防除が省け、防除回数の低減が可能です。

注）育苗箱施薬剤と除草剤は区別して保管しましょう。

病害虫防除 水田入水後、貝の活動が活発になり始めたら散布しましょう。被害発生前に早めに散布するようにしましょう。

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミノン	1～4kg/10a	湛水散布	（収穫60日前まで 2回以内）
スクミンバイト3	2～8kg/10a	湛水散布	（使用回数・使用時期制限なし）

（スクミンバイト3の使用量登録が変わりましたので、ご注意ください。）

基肥一発型肥料

速効性肥料と緩効性肥料が入った、追肥のいらない省力型肥料です。

生育に合わせ窒素成分が供給されるため、利用効率が高まります。側条施肥にも適しています。

※ただし、天候や生育状況により追肥が必要になる場合もあります。

てまいらず464ネオ・スーパーナイスワン 30～40kg/10a
（栽培条件に応じて適宜増減してください）

キヌヒカリ、さとじまん、はるみ、てんこもりに使用できます。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の収集について

成田営農経済センターにて下記の日程で収集しますので、スクミリンゴガイを発見した場合は捕獲をお願い致します。

- 記
- | | |
|---------|---|
| 1. 収集日 | 令和7年6月2日（月）・9日（月）・16日（月）・23日（月）30日（月）
7月7日（月）・14日（月）・22日（火）・28日（月）
8月4日（月）・18日（月） 9月1日（月）・8日（月） |
| 2. 収集時間 | 8時40分～12時（基本）
※時間に間に合わない場合は成田営農経済センターにご連絡ください。 |
| 3. 収集場所 | 成田営農経済センター
住所：小田原市成田802-1 TEL：0465-38-0131 |

【注意事項】

- ・スクミリンゴガイには寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、捕獲の際はゴム手袋を着用し素手では触らないようにしましょう。（個別回収はいたしませんので、収集場所への持込をお願いします）

令和7年産米穀出荷契約(申し込み)をお願いします！

令和7年産米の出荷契約申し込み受け付けを開始いたします。昨年度出荷された方には契約書類一式を郵送いたしますので、契約をお願いいたします。なお、新規で契約される方は最寄りの営農経済センターまでお問合せください。

JAに出荷されたお米の約8割は県内の学校給食として使われますが、まだまだ足りていない状況です。1袋でも構いませんので、是非とも出荷を検討いただき、契約をお願いいたします。

提出期日：**令和7年5月15日(木)**
提出先：最寄りの支店

【契約にあたっての注意事項】

○期日を過ぎてからの契約数量の変更はできません。

○令和5年10月1日より開始した消費税インボイス制度化^{*1}において、組合員加入されていない方が出荷した農産物が混在する取引については、制度上、農協特例^{*2}の適用を受けることができません。つきましては、**JAへの米穀出荷にあたっては「組合員家族」や「員外(非組合員)」ですと農協特例の対象となりませんので必ず「組合員」の方名義で出荷申し込みをしていただくようお願いいたします。**

現在組合員加入されていない利用者の皆さまにおかれましては、加入をご検討いただき、加入を希望する場合は最寄りの支店にて入手続きを行って頂きますようお願い申し上げます。

加入はあくまで任意ですが、「組合員」名義でのお申し込みにご協力をお願いいたします。

また、今年度の概算金について下記のことが決まりましたので、ご確認ください。

- ・例年同様、9月ごろを目途に価格が決定し、改めて周知いたしますが、集荷時の情勢を踏まえ、県給食会との協議を踏まえた追加払いも検討します。

詳しくは、最寄りの支店・営農経済センターまでお問い合わせください。